

第3回八代海域調査委員会議事要旨

【1】開催日時

平成 13 年9月3日(月) 14:00～16:45

【2】開催場所

KKRホテル熊本(2F 城彩の間)

【3】出席委員(敬称略)

委員長 弘田禮一郎 熊本大学名誉教授

委員

(学識経験者)

大本 照憲	熊本大学工学部助教授
門脇 秀策	鹿児島大学水産学部教授
楠田 哲也	九州大学大学院工学研究院教授
篠原 亮太	熊本県立大学環境共生学部教授
滝川 清	熊本大学沿岸域環境科学教育研究センター教授
堤 裕昭	熊本県立大学環境共生学部教授
逸見 泰久	熊本大学沿岸域環境科学教育研究センター講師

(敬称略 50 音順)

(漁業者代表)

井手 正徳	熊本県漁業協同組合連合会代表理事会長
(代理)吉岡博秋	総務部長
沖崎 義明	熊本県漁業協同組合連合会第六部会長
福田 諭	熊本県漁業協同組合連合会第四部会長
松本 忠明	熊本県漁業協同組合連合会第五部会長
宮本 勝	熊本県漁業協同組合連合会第三部会長
森枝 哲男	鹿児島県東町漁業協同組合代表理事組合長
(代理)波戸親志	営漁指導課長

(敬称略 50 音順)

(行政関係者)

森田 安雄 水産庁九州漁業調整事務所振興課長
工藤 啓 国土交通省九州地方整備局河川部河川調査官
飯牟禮 信幸 国土交通省九州地方整備局港湾空港部海域環境・海岸課長
(代理)今林章二 課長補佐
久保 一昭 海上保安庁第十管区海上保安本部水路部水路課長
本山 茂夫 気象庁長崎海洋气象台業務課長
中島 一見 国土交通省八代工事事務所長
塚原 健一 国土交通省川辺川工事事務所長
今永 繁 国土交通省熊本港湾空港工事事務所長
矢澤 吉邦 熊本県環境生活部環境保全課長
望月 一範 熊本県企画開発部地域政策課長
上田 史朗 熊本県土木部河川課長
(代理)藤原康幸 土木審議員
板崎 清 熊本県林務水産部水産振興課長
(代理)岩下徹 水産審議員
伊勢田 弘志 熊本県水産研究センター所長
前田 和宏 鹿児島県水産試験場長

(敬称略順不同)

【4】配付資料

議事次第

資料－1 出席者名簿

資料－2 配席表

資料－3 第2回八代海域調査委員会議事要旨

資料－4 第3回八代海域調査委員会資料

資料－5 第3回八代海域調査委員会参考資料

【5】議事次第

1. 開会
2. 議事
 - (1)八代海およびその流域環境の現状と変遷について
 - (2)平成13年度梅雨期の現地調査結果について
 - (3)水質シミュレーションによる検討手法について
3. 閉会

【6】議事要旨

1. 八代海およびその流域環境の現状と変遷について

(議論の結果)

今回の審議を踏まえ、八代海及びその流域環境の現状と変遷について、事務局で最終の取りまとめを行うこととなった。

(議論の要旨)

- 漁業者ヒアリング結果の記載内容で「川辺川ダム事業に協力する」旨の記述があるが、「規模が縮小され現在の川辺川ダム事業の目的だけに利用されるのであれば」という条件を追記して欲しい。
- シミュレーションにて使用する「八代海への排出負荷」が平成7年度値となっているが、これは平成10年度に八代海の環境基準値（N、P）を策定した際のバックデータである。
- 八代海への養殖漁業の排出負荷量について、近年は、平成7年の状況とは異なり投餌方法等が改善されたこと及び養殖量そのものが減ったことにより、平成11年度現在、N、P値は平成7年度値の50～60%程度となっている。
- 平成7年度以降の投餌方法の改良により、現在は養殖場からの負荷が海を汚しているとは思わない。
- 熊本県には、以前より負荷量のデータの提供依頼を行っているので、正確なデータを速やかに提出してほしい。
- 養殖漁業の排出負荷については、本日の議題である水質シミュレーションモデルによる検討手法の議事にて再度議論する。

2. 平成13年度梅雨期の現地調査結果について

(議論の結果)

平成13年度梅雨期の現地調査結果については、基本的に了承された。

(議論の要旨)

- 球磨川河口域の底生生物について、他の砂質干潟と比べても少ないと思えるし、洪水後のアサリの生息状況が気になる。
- アサリの減少は、緑川河口でも同じ現象が見受けられることから洪水との関係はないと考える。
- 今回の現地調査結果は、潮汐以外にも気象条件なども考慮した形で取りまとめを行うべきである。
- 今後の水質シミュレーションに向けても同様であるが、湾奥に係わる球磨川以外の流入河川の影響も考慮する必要がある。
- 濁度について、自動観測装置によるものと可搬型計測器によるものとの値に相違が見受けられる。濁度と流量との相関関係をわかりやすく表現してほしい。

3. 水質シミュレーションによる検討手法について

(議論の結果)

水質シミュレーションによる検討手法については、事務局案で了承された。なお、近年の養殖漁業実態を反映させた排出負荷量の値については、後日、熊本県と事務局とで協議し決定することとなった。

(議論の要旨)

- 養殖負荷については、近年は平成7年度値を基準と考えているようだが、餌の使用実態等が大きく変わっており、最新の値でも水質シミュレーションを実施してほしい。
- 養殖漁業による残餌が沈降した底質は溶出負荷の発生源と考えられ、その状況は場所によってばらつきがあるため、既存調査などでも推定する必要がある。
- 養殖負荷量の設定については、養殖漁業工程なども考慮する必要がある。
- 水質シミュレーションは、学識経験者委員の意見を尊重してきちんとした形で実施してほしい。

- 水質シミュレーションは、まず、現況再現を行って関連する諸係数を決定するものであり、そのためには入力データが整っている年で実施することが必要である。
- 近年の養殖負荷データについての改善効果等についてはモデル構築後において、新たな外部条件として入力することになる。
- 養殖の負荷量が平成7年の量と比較して半分になったとしても、陸域からの排出負荷のうち流入負荷が30～60%であることを考慮すれば、状況は大きく変わらないと考えられる。

4. その他

- 第4回八代海域調査委員会は、9月26日前後に実施することで了解。
- 八代海沿岸37漁協への中間説明会を9月5日に熊本県八代市にて実施する。
- 今回の質疑応答の内容は、発言者を特定しない形で議事要旨としてまとめたものを委員長が確認したうえでホームページにて公表する。